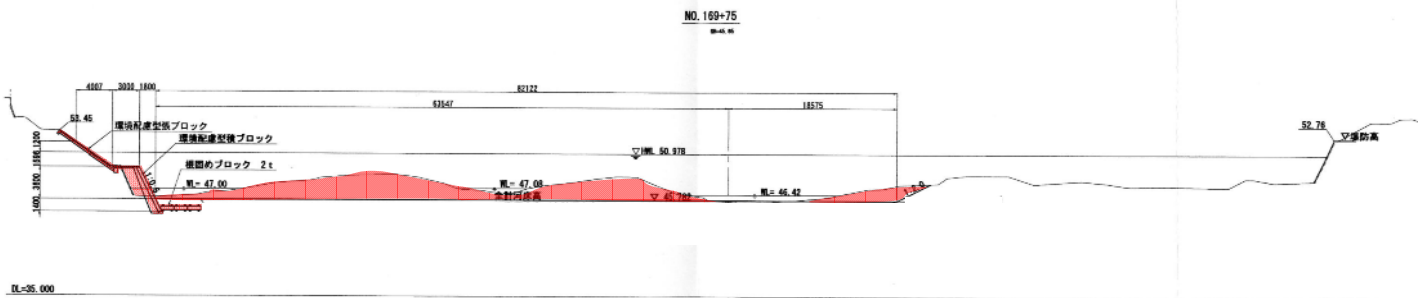


未整備区間(青葉台下流から上流)

①



標準断面図(青葉台下流から上流)



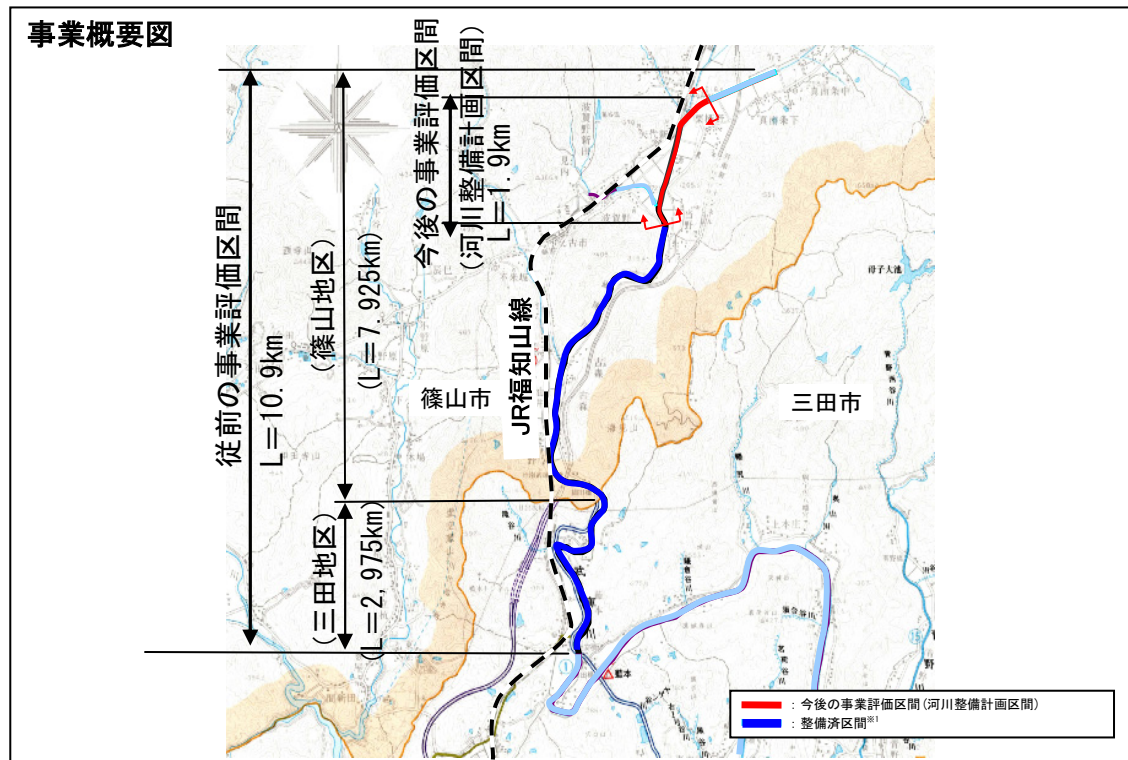
【6-03 二級河川 武庫川(上流武庫川工区) 広域基幹河川改修事業】

[従前] 従前の事業評価区間での比較

	現計画	前回評価時点 (H21 中間報告)
事業採択年度	昭和 46 年度	昭和 46 年度
完成予定年度	平成 30 年度	平成 30 年度
総事業費	35 億円	35 億円
整備延長	10.9km	10.9km
整備区間	篠山市波賀野～三田市藍本	

[今後] 河川整備計画に位置付けられた、今後の事業評価区間での比較

	現計画	前回評価時点 (H21 中間報告)
河川整備計画策定年度 (事業採択年度)	平成 23 年度	平成 23 年度
完成予定年度	平成 30 年度	平成 30 年度
総事業費	2.9 億円	2.9 億円
整備延長	1.9km	1.9km
整備区間	篠山市当野～南矢代	



※1 今回の河川整備計画の整備目標流量に対して流下できる断面が確保されている区間

事業変遷

昭和 36 年 : 6 月洪水
 昭和 46 年 : 小規模河川改修事業着手
 昭和 48 年 : 武庫川改良工事全体計画書認可
 平成 8 年 : 8 月洪水 (浸水家屋 5 戸)
 平成 9 年 : 工事実施基本計画承認
 平成 10 年 : 事業評価 (再評価)
 平成 15 年 : 事業評価 (再評価)
 平成 16 年 : 10 月台風 23 号 (浸水家屋 2 戸)
 平成 21 年 : 武庫川水系河川整備基本方針策定
 河川整備計画策定中間報告
 平成 23 年 : 武庫川水系河川整備計画策定
 平成 24 年 : 武庫川水系河川整備計画策定完了報告 (再評価)

河川整備計画策定報告【6-03】

部課室名	県土整備部土木局 武庫川総合治水室 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	武庫川総合治水室長 笹倉 康司 河川整備課長 松本 正利 (課長補佐兼武庫川企画係長 勝野 真) (都市河川係長 山本 良太郎)	内線	4441 4408 (4424) (4417)
------	-------------------------------	---------------------	---	----	----------------------------------

河川整備計画名	武庫川水系河川整備計画
---------	-------------

河川整備計画の策定経緯	平成 21 年 3 月 10 日 河川整備基本方針策定 ○武庫川流域委員会(第 1 回～第 68 回) 平成 16 年 3 月 23 日～平成 22 年 9 月 16 日 ○河川整備計画策定 平成 23 年 8 月 26 日
-------------	--

河川整備計画と事業評価の関係	採択	～H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
	S46	H10 再評価 ○			再評価 ○	委員会立ち上げ				中間報告 ○		河川整備計画策定		◎報告

武庫川委員会の主な意見	対応等
<ul style="list-style-type: none"> ・河川整備計画の進行管理についての評価・改善の機能を担うフォローアップ委員会を設置し、「参画と協働」のもと、着実に施策・事業を実施すること。 ・上流工区は、緩流性の環境を好む生物が生息するなど全県的にも生物多様性が高い区間であることから、これら自然環境の保全・再生に配慮した川づくりが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・H23 年 9 月「武庫川水系河川整備計画フォローアップ委員会」を設置。今後は、河川整備計画の着実な推進を図るため、PDCA サイクルによる進行管理の仕組みを導入するとともに、本計画に位置付けた施策や事業の実施状況等について情報発信し、地域住民等の理解と協力を得ていく。 ・河川整備にあたっては、濬筋、瀬・淵、ワットの再生などに取り組みるとともに、移動性が低いオガヨウネや二枚貝類の移植対策を実施するなど、工事後も緩流性の環境を好む生物が生息・生育できるよう自然環境の保全・再生に努める。

事業種目	河川事業	新規評価年度	—	現 計 画 ^{※1}	前 回 (H21) ^{※2}
事業名	二級河川武庫川水系 武庫川(上流武庫川工区) 広域河川改修事業	河川整備計画策定年度	H23	総事業費	2.9億円
		〔事業採択年度〕 着工年度		内用地補償費	—
		再評価年度	—	完成予定年度	H30
事業区間	篠山市当野～篠山市南矢代			進捗率 (内用補進捗率)	14%
所在地	篠山市当野～篠山市南矢代			残事業費	2.5億円

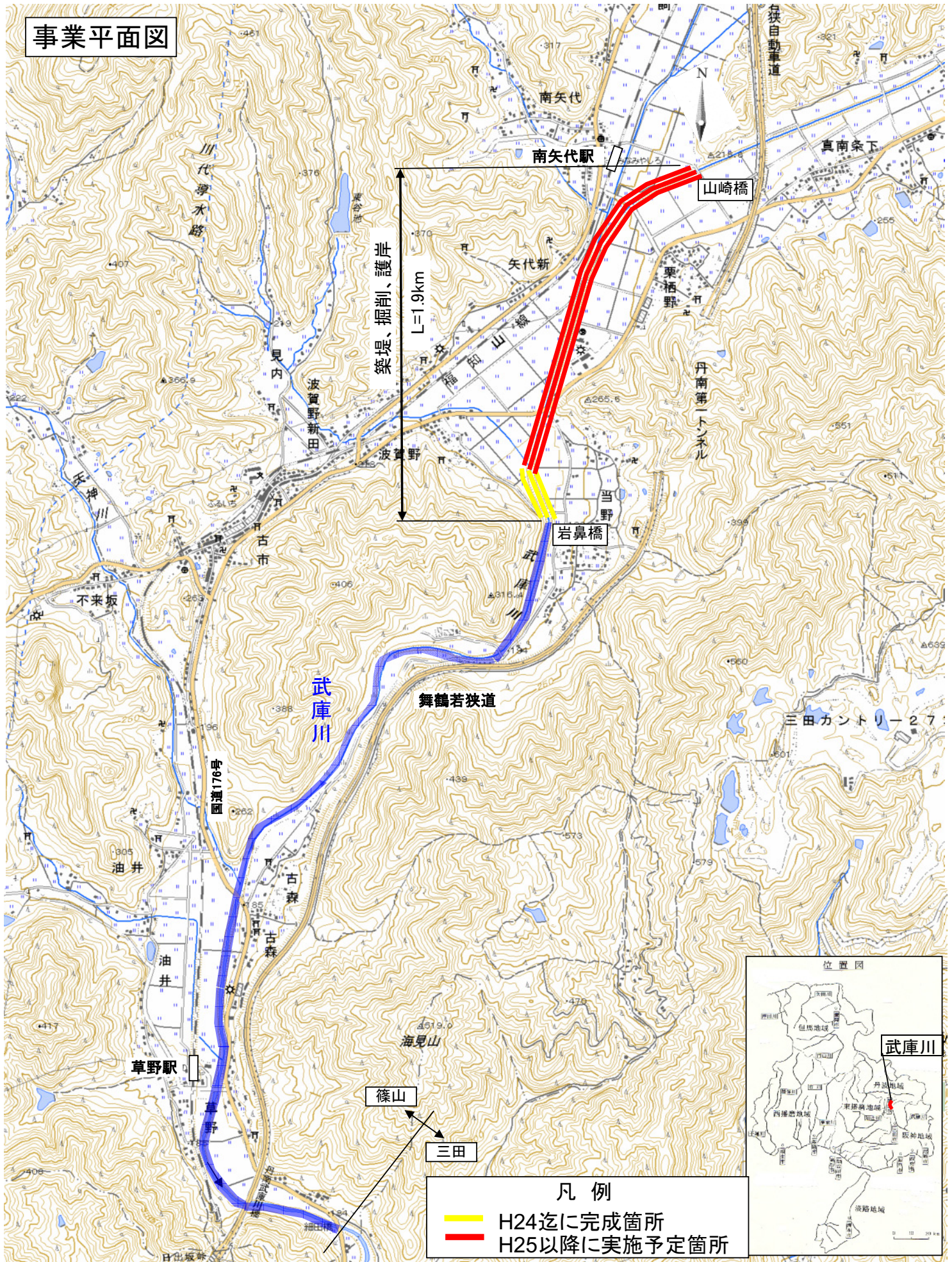
事業の目的	事業内容
当該河川は河積が狭小で無堤であり、平成8年8月の豪雨や平成16年台風23号により、浸水被害が発生してきた。当該地域の浸水被害を防止するため、昭和36年6月27日洪水(戦後第2位)を目標に改修を行い、地域住民の安全・安心な生活環境を確保する。	現 計 画
	前 回 (H21)
	〔負担割合 国 1/2、県 1/2〕
計画流量	110m ³ /S (岩鼻橋地点)
整備延長	1,900m
築堤、掘削、護岸	1式

【前回中間報告時点からの事業計画の変更概要】
 ①河川整備計画の策定に伴い、河川整備計画にあわせ事業区間等を見直した。

(1)必要性	①近年においても浸水被害が発生しているが、直下流の三田市域の改修を平成22年度に終えており、篠山市域では今後も河床掘削を継続して進める必要がある。
(2)有効性・効率性	①費用便益比 B/C=14.1 ②河床掘削により発生した土砂の処分について、工事間流用を促進しコスト削減を図る。
(3)環境適合性	①改修工事を行う際、貴重種動物の保全に努めている。 ②篠山市域では貴重動植物が多数確認されたため、学識者や地域住民からなる検討会を設置し、『上流武庫川「自然を活かした治水対策」検討委員会に基づく河道改修マニュアル(案)』を作成した。河川整備にあたっては、マニュアル(案)に基づき整備を行うとともに、施工中も必要に応じて、専門家の意見を聴くなど、自然環境の保全・再生に努めていく。
(4)優先性	①残事業区間は計画流量に対する現況流下能力が約40%と低く、再度災害を防止するため早期に改修工事を進めることが必要である。
対応方針	策定された河川整備計画に基づき、事業の早期完了に向け、事業推進を図る。

※1：河川整備計画策定後、H24年度までに整備済みとなった部分を含む。
 ※2：前回の中間報告時の内容を河川整備計画区間で置き換えた値。

事業平面図



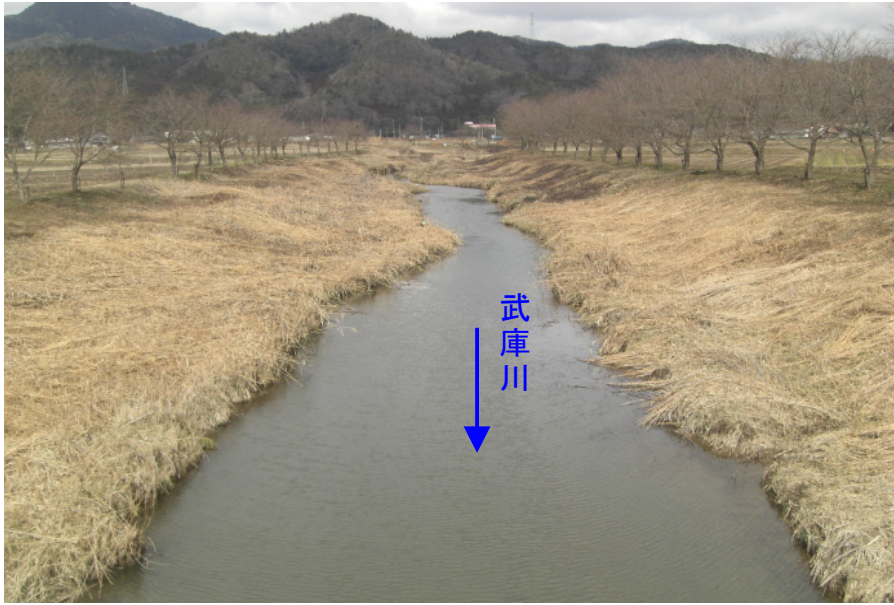
L=1.9km

丹南第一トンネル

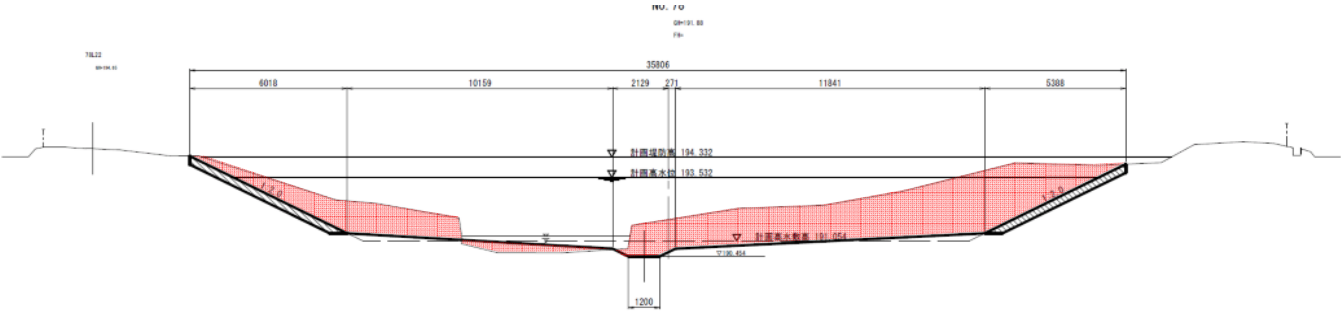
- 凡例
- H24迄に完成箇所
 - H25以降に実施予定箇所



未整備区間(波賀野川合流点下流)



標準断面図(岩鼻橋上流)



【6-04 二級河川 武庫川(大堀川) 流域治水対策河川事業】

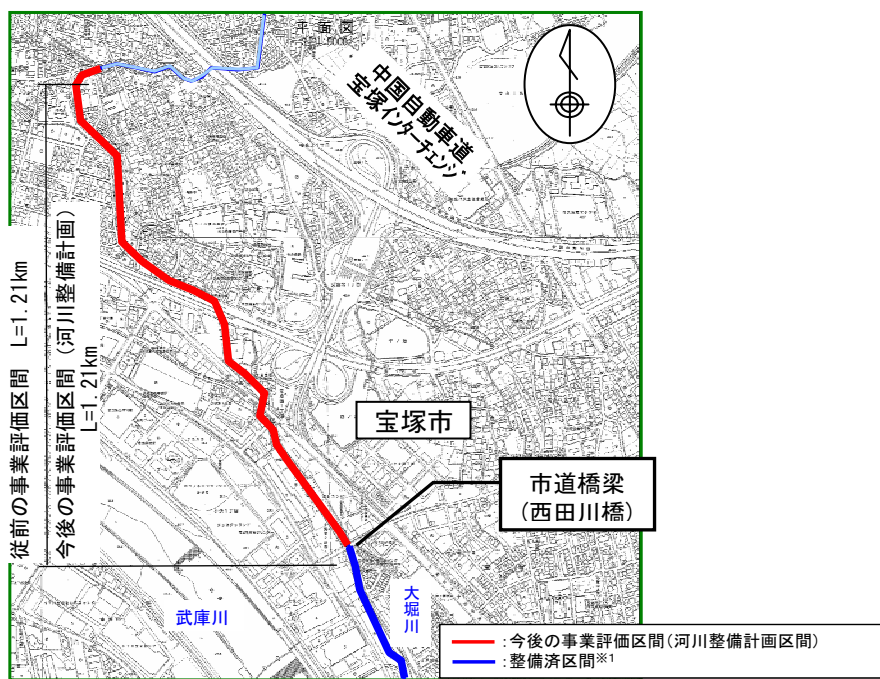
[従前] 従前の事業評価区間での比較

	現計画	前回評価時点
河川整備計画策定年度 (事業採択年度)	平成 23 年度	平成 23 年度
完成予定年度	平成 37 年度	平成 37 年度
総事業費	23 億円	23 億円
整備延長	1.21km	1.21km
整備区間	宝塚市小浜 2 丁目～米谷 1 丁目	

[今後] 河川整備計画に位置付けられた、今後の事業評価区間での比較

	現計画	前回評価時点
河川整備計画策定年度 (事業採択年度)	平成 23 年度	平成 23 年度
完成予定年度	平成 37 年度	平成 37 年度
総事業費	23 億円	23 億円
整備延長	1.21km	1.21km
整備区間	宝塚市小浜 2 丁目～米谷 1 丁目	

事業概要図



※1 今回の河川整備計画の整備目標流量に対して流下できる断面が確保されている区間

事業変遷

昭和 48 年：武庫川改良工事全体計画書認可
河川局部改良工事着手(武庫川合流点～西田川橋)

平成 9 年：7 月洪水
平成 11 年：6 月洪水
平成 12 年：11 月洪水
平成 16 年：10 月洪水
平成 19 年：8 月洪水
平成 21 年：武庫川水系河川整備基本方針策定
平成 22 年：新規事業評価
平成 23 年：武庫川水系河川整備計画策定
平成 24 年：武庫川水系河川整備計画 策定完了報告(再評価)